

教 育 委 員 会 会 議 録

令和 7 年 1 月

教育長	教育次長	学校教育課長	社会教育課長	会 議 ・ 区 分	
				定 例 会	
開会場所	加悦保健センター 2 階 農事相談室			担当書記	中 上 伸 午
会議日程	自 令和 7 年 1 月 3 0 日（木） 1 日間 至 令和 7 年 1 月 3 0 日（木）				
出席者数	委員 5 名 出席				
出席委員	教育長 長島 雅彦 委 員 樋口 潔 委 員 酒井 英隆 委 員 佐々木 和代 委 員 植田 智子				
欠席委員					
説 明 者	教育次長兼学校教育課長 中上 伸午 社会教育課長 小谷 貴儀 総括指導主事 高岡 弘安 指導主事 片西 健太 指導主事 宮崎 竜也				
署名委員	委 員 酒井 英隆 委 員 佐々木 和代				
そ の 他	【傍聴者】 なし				

会 議 に 付 し た 事 件

項 目	件 名	結 果
審議事項	・ なし	

協 議 及 び 報 告 事 項

項 目	件 名
協議事項	・ なし
報告事項	・ なし
そ の 他	・ 令和6年度いじめ調査（2回目）報告及びいじめ調査（1回目）追跡調査報告について ・ 令和6年度第2回学級満足度調査結果概要について ・ 令和7年度学校教育指導の重点について ・ 学力状況の広報について ・ 今後の予定について

教育委員会会議録

- 1 日 時 令和7年1月30日 午前9時30分から午前11時30分まで
- 2 場 所 加悦保健センター2階 農事相談室
- 3 議事の概要

[長島教育長]

それでは定刻になりましたので、令和6年度第10回与謝野町教育委員会会議を開催したいと思います。本日、会議の傍聴はありませんでした。

それでは、お配りしております日程に従いまして、会議を進行いたします。

日程第1「会議録署名委員の指名」についてでございますが、酒井委員と佐々木委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(両委員とも了承)

[長島教育長]

承認をいただきましたので、よろしくお願いいたします。

次に、日程第2、「確認事項」といたしまして、会議録の確認をお願いいたします。

はじめに、11月29日に開催いたしました令和6年度第8回教育委員会会議の会議録につきまして、前回の委員会においてご指摘いただいた箇所について修正をさせていただいております。修正の通りご確認いただいたということでよろしいでしょうか。

(委員了承)

それでは、本会議終了後に署名をお願いいたします。続きまして、12月25日に開催いたしました令和6年度第9回教育委員会会議の会議録につきましては、修正等はありませんでしょうか。

(委員了承)

[長島教育長]

それでは、本会議終了後に署名をお願いいたします。

[長島教育長]

続いて、日程第3、「教育長の報告」に入らせていただきます。

例年であれば、最も寒く積雪がそれなりあってもよいはずの20日の二十四節気の「大寒」を過ぎ、早くも「立春」も近づいてまいりました。本日は寒さが増し、来週には一段

と寒くなるような予報が出ておりますが、この間、少し春めいた穏やかな日もございました。

さて、6日には例年のごとく年頭の校園長会議にご出席いただき、皆様より校園長の先生方への訓示・挨拶をいただきました。教育委員、町民・地域住民そして保護者のお立場、それぞれのお立場や観点から、今年も貴重なお話をいただきました。新年早々にご無理・ご負担をお願いしているところですが、年頭に校園長が組織の長としての決意と覚悟を新たにするという意味からも、誠にありがたい機会でした。感謝を申し上げます。

また、14日には本年度最後の学校訪問ということで加悦小学校へお世話になりました。委員の皆様には、本年度も熱心に保育・授業の見学をしていただいたこと、協議においても忌憚のないご意見をいただきましたこと、心より感謝を申し上げます。なお、当日は町長にも同席してもらい学校だけでなく委員の皆様の訪問のご様子も見ていただきました。このことも大変良かったと思っております。できましたら来年度も本年度と同様に7月にこども園を訪問するという形で、秋に諸行事や取組が集中することを少しでも緩和できればと考えているところでございます。

まず、校園の様子ですが、季節性インフルエンザが12月中旬より猛威を振るい、昨年に続く行動制限のない年末年始の影響が3学期の始業当初に出るのではないかと大変危惧していましたが、幸いにして学級閉鎖も1クラスで止まっております。定点把握の数値はレジュメの通りですが、12月下旬をピークとして数値は下降傾向にあります。まだまだ予断は許せませんが、入試や卒園卒業に向けての取組が進んで行きますので、収束傾向が進むことを願いたく思います。

続いて新しい名称となった3回目の二十歳の成人式ですが、好天に恵まれ穏やかな日となった12日に開催されました。今年も代表者による謝辞では心のこもった家族や周囲の方々への感謝、そしてふるさとである与謝野町を思う内容に、大変感心したところでございます。

なお、当日の出席者数や出席者の割合はレジュメのとおりですが、今年から対象者をレジュメにあるように変更したことにより、対象者が増えております。そして当日、ご出席をいただきました委員の皆様よりご感想などをいただければと思います。

続いて4の今後の進路関係の日程、5の卒業式関連の日程はレジュメにあるとおりでございます。特に卒業式におけるご来賓としての出席につきましては、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

最後、本日の議題でございますが、次第のとおり多くの報告事項などがございます。この後、よろしくお願いいたします。

以上が私の報告とさせていただきますが、成人式等でお感じになられたことがありましたら、ご発言をお願いしたいと思います。

[酒井委員]

私は成人式を欠席とさせていただきましたが、出席された方の人数はどの様になっているのでしょうか。

[小谷社会教育課長]

出席者数は例年と比較して大きく変わりませんでした。案内を出させていただく対象者をどの様にしたかについて、今年は住民基本台帳に一度でも登録された方全員に案内を出

させてもらいました。

実態として、住民登録されていた方でも、一度、町を離れてしまうと案内が送付されていない方もあると聞いているため、一度でも住民登録があった方には送付させていただきました。この方法が漏れが無いであろうという事でその様になりました。分母が変わってしましますが、出席の状況については、去年と非常に差があったということは無いと思っています。

[酒井委員]

与謝野町に限らず全国的なのかも知れないですが、成人式に出席される方は、少なくなっているのかも知れませんが、時期を変えるなど検討がなされているのでしょうか。

[小谷社会教育課長]

今のところ時期の変更までは考えておりません。確かに他の自治体では成人式は1月に行われている自治体もありますが、先ほど触れましたように、現時点において急激に出席者数が減っている状況では無いので考えていませんが、仮にその様な状況が、今後続く様であれば考えることはあるかも知れません。

[長島教育長]

伊根町と京丹後市が3月ですか。

[小谷社会教育課長]

そうですね、さっき言った事と逆ですね。成人式とは違う時期に行う自治体もあります。

[長島教育長]

樋口委員お願いします。

[樋口委員]

私も出席させていただきまして、本当に成人の方々も厳かな式を出席していただいて、節目として良いことだと思います。伝統的な考え方ですが、1月にしていなければありがたいと思ってます。日が昔から決まっていることですので、こうした行事は1月にしていなければありがたいと思います。

モニターが外に向けて置いてあったのですが、あれは非常に良いことだと思います。ずっと待っておられる方がいらっしゃる中で、中には入れないけれども、モニターで視聴できる姿というのはありがたいものでして、ケーブルテレビでも放映されるでしょうが、気遣いは本当に大切なことだと思いました。

私も長く出席させていただいておりまして、昔はわーくばるに青年がたくさん並んでおられたイメージがありますが、コロナの時はそうした姿も見られなくなりました。コロナ前にホールに人がたくさん並ぶイメージがありましたが、最近少なくなっているのは成人の数が減ってきているから仕方が無いのかなと思いつつ、1人1人がそういう気持ちで接していれば本当にありがたいと思います。

質問としましては、酒井委員のご質問と少し被る部分もあるのですが、一度でも与謝野町に縁があって住所を置かれた方を自動的にリストアップしてということになりますと、

現在、他の市町村に居住されている方が与謝野町と同じ日に成人式をされるとしますと、その場合において、その方には与謝野町と今お住まいの市町村の2ヶ所から成人式の案内が届く可能性もあると理解してよろしいですか。

[小谷社会教育課長]

それはお見込みの通りです。その様に2通届く可能性はあります。

[樋口委員]

分かりました。それは2通受け取ったため、2回出席していただいても結構ですし、先ほど課長がおっしゃった様に漏れが無いことが大切なことだと思うのです。たとえ短期間であっても、すごく思い出がある方もおられるかも知れませんが、一旦離れ離れになった方々が、こういった機会が集まって昔のことを思い出したり、これからの人生の中で、その繋がりが大切になる可能性もありますので、そういったことも大事にして成人式を続けていただけたらありがたいと思っております。

[小谷社会教育課長]

樋口委員がおっしゃった通り、できるだけ大勢の方に集まっていただいて旧友を深める、昔の事を思い出しながら与謝野町に引き続き関わっていただける。そんな支えになれば良いという考えで成人式をしています。

実際にあった事例ですが、当日、やっぱり参加させて欲しいという要望がありました。その様な要望があった場合においても全て認めています。とにかく皆さんが集まっていただけの機会を作りたいという意識で行っているのです、これも引き続き行いたいと考えています。

[樋口委員]

それに関連してですが、記念品を今年も送られた様ですが、それは出席された方だけにお渡しするのでしょうか。それとも該当者全ての方にお渡しするのでしょうか。

[小谷社会教育課長]

出席された方のみに、当日お渡しをさせていただきます。

[長島教育長]

佐々木委員をお願いします。

[佐々木委員]

私も出席させていただいたのですが、厳かで女性の方々は皆さん振袖で綺麗だなと思っ
て見させていただきました。開催時期についてですが、基本的に1月が良いのかなと思
いますが、学生の親御さんからは受験や試験と時期も重なるため、3月が良いというご意見
を聞いています。

[長島教育長]

植田委員をお願いします。

[植田委員]

私は初めてあの席から見させていただいて、今までは保護者の立場でありました。保護者の立場としては、外に設置されたモニターで見るのはすごくありがたいと思います。今年はまだ寒くないと思ったのですが、外の保護者に向けていくのであれば、暖房器具といいますか、保護者の方が窓の周辺で震えていらっしやったので、余力があれば防寒対策もしていただけるとありがたいと思いました。

それと振袖で来られていて、ホールの中に入ってからショールを付けられているお嬢さん方は、一度、「入室される前に外されたらいいですよ」と声掛けをしますと、テレビに撮られている時も、ショールをその都度外す必要がありませんので、「ショールは入口で手に持ってください」と声掛けをするのか、それとも「お預かりします」とするのか、テレビに映る事もあり、気になりました。

[小谷社会教育課長]

中に入ったら外す物であるというのは、お節介かも知れませんが、もしかしたら考えがあってしていることもあるかも知れないと思いましたので、あえて言わなかったのですけれども、多分、知らないと思うのです。多分、親御さんももしかしたら知らないと思います。

[植田委員]

そうだと思います。入口でできれば手荷物として預かるなど、入室すれば動けない状態ですので、それは少し感じます。あとはとても良かったと思います。

[長島教育長]

ご指摘いただいた視点というのは、今、おっしゃっていただいてそう思った次第です。それは運営する側の社会教育課にも、そういう視点というのは、どの程度共有ができていのかと言いますとできていないですかね。確かに植田委員がおっしゃられる様に言ってあげる方が親切なのでしょう。

[植田委員]

これからも、そういう場面があった場合にずっと何か付けたままで入るのでなく、入口で身支度をしてから入るものという事を教えた方が、20歳の時に体験できたと思える子もいると思います。

[長島教育長]

それでは、次に日程第4、「その他」に入らせていただきます。
始めに、「令和6年度いじめ調査（2回目）報告及びいじめ調査（1回目）追跡調査報告について」、高岡総括指導主事が報告をいたします。

（高岡総括指導主事から資料に基づき説明）

[長島教育長]

何か、ご質問等ございますか。

(委員からの質問なし)

[高岡総括指導主事]

では続いて、2番の説明をさせていただきます。資料をご覧ください。

(高岡総括指導主事から資料に基づき説明)

[長島教育長]

何か、ご質問等ございますか。

[植田委員]

不登校の原因にありました生活リズムの不調と、ゲーム・情報機器を使っている状態の繋がりがあっていると思っていて、生活リズムが崩れると支援が受けられず悪循環に入っていくと思いますので、保護者の方と連携してできる様にして欲しいのと、あと情報機器の繋がりで、使い方も指導されていると思いますが、事あるごとにその危険性と、こちらでは分からない部分をできるだけ、知れる様なやり方をしてもらいたいと思います。

1ヶ月先には、また違うものが出てきている状態で、大変だと思いますが、子どもの知識不足のために危険に陥ることがない様、何度も繰り返し危険性の発信をしていただきたいと思います。

[長島教育長]

大事なことを申し上げていただきました。高岡総括お願いします。

[高岡総括指導主事]

子ども達のSNSを使う状況は、文科省の状況調査で質問紙の結果でも公表されていますように、結構時間を使う子どもたちもいます。

先ほど、闇バイトのお話をさせてもらいましたが、本当にそういう意味では問題になる様な中身はたくさんあります。いろんな人と繋がれますし、薬物の情報も、自殺に係る情報なども、入手しようと思えば出来ます。そういう意味では、学校がすべての子どもたちの状況を知り得ている訳ではありませんが、1つは子どもたちが困っている時に教師に伝わる繋がる関係の構築、それから様々な関係や取組の中で目が届くという様な事は大事です。

委員ご指摘の通り、SNSでの危険な状況や子どもたちが困っている状況が教師の耳に届かなかつたり、表に出てきていなくても、様々な形で保護者連携しながら進めなければならない部分があります。情報機器の活用方法は、広がっており、小学校でも持ち帰って、その中で学習を行う様になっています。中学校だけの問題ではありません。

[植田委員]

子ども達が持ち帰ってタブレットで宿題をする事は、大人達は凄いと認められるご意見が多いのですが、その危険性も理解して欲しいと思います。好きな様に自分で検索できて、

先ほどおっしゃっていた様な、薬物や闇バイト、自殺という言葉を検索する場合があります、実態として管理できていないのかと思われますが、教育委員会で検索履歴は見えないのでしょうか。

[片西指導主事]

まずフィルターが掛かっているのも、ある程度危険性があるワードや、検索において相応しくないものについては検索をしても見れない様なフィルター設定にしています。それからインターネットの検索の履歴については、学校から問い合わせがあったり、気になる時は、検索結果や履歴が見られる様になっています。教育委員会で把握をすることができます。それを学校に返して直接取り押さえることはプライバシーの問題もあるため、その様にはならないのですが、学校に伝えつつ上手に子どもを指導していくということはこれまでもありました。

[植田委員]

先生側が検索している内容を監視しているため、検索内容が分かる事を予め伝える事で、見られない事は全く無いかと思いますが、予防する事は可能なのかと思います。

「相応しく無いサイトを見ていた、監視されている」と児童生徒に予め教えておくことは1つの方法かと思います。

[片西指導主事]

年度当初の使い方の指導や、事故が発生してからその様な事を言うのでは無くて、特に中学校では検索内容を調べられる設定にしているという事は、情報モラルの指導の中で生徒に指導している学校もあるかと思います。

[植田委員]

子ども達の心理としては、先生に見られているという事は非常に嫌なので、見えないギリギリのところで見ている子どももいるのかも知れませんが、本当に見ている時はチェックして対応しなければなりません。

遊びでやってる子も、もしかしたらいるかも知れませんが、そういう子どもには、「それが見えてますから駄目です」ということを知らせた方が良いかと思いました。

[長島教育長]

モラルの面についての指導は継続して、絶えずやらなければならない部分かと思います。改めて校園長会でお願いしていきます。

他の委員の皆様いかがでしょうか。酒井委員お願いします。

[酒井委員]

もう1つの質問ですが、不登校の件です。少し語弊があるかも知れないですが、最近は極端な話、学校に行かなくても良いのだらうという論調で言われる方も一定数おられます。これから先、不登校が今までの不登校とは印象の違う、積極的な不登校、あえて行かないみたいな時代になってくるのかと、そういう人達も出てくるのかなという様なことは感じています。

今の与謝野町の不登校の方で、調査はされていないと思いますが、具体的な数字は分からないと思いますが、本当は学校に行きたいけども行けないという、そういう不登校では無く、ご家族の方も意味納得した、学校に行かずに自分で勉強するなどの不登校はどのような実態でしょうか。

[高岡総括指導主事]

本人や保護者の納得の上で、将来の付きたい職業や進路希望の実現に向けて、学校を欠席するという事例もなくはありません。

そうした希望を「認めていかなければならない」という風に社会の情勢も進んでいるように思います。

昨年の8月に文科省が「不登校児童生徒が欠席中に行った学習の成果に係る成績評価」についての通知を出しました。それは、文科省が示す3つの条件を満たしている場合は、教育支援センターやフリースクールのみならず、自宅等において学習している子どもたちの努力を積極的に評価していくことが必要ですという通知でした。

コロナ禍以降不登校の児童生徒が増えてくる中で、子供たちの将来を見据えた時、「1日も学校に来ていない子どもであっても評価ができる部分があったら評価をください。」というような言い方を文科省はしていませんが、考え方の方向としてはそうした方向で世の中は動いているのではないのでしょうか。

[長島教育長]

都市部ではそういう状況は既にあり、与謝野町でもそういう傾向というか、もう出始めるところまで来たのかなと思います。

[高岡総括指導主事]

不登校の子どもでトライアングル等教育支援センターやフリースクールに行った場合は、出席扱いになっています。

フリースクールやトライアングル以外の場所でも、出席扱いと認められる様なケースは、はっきりとは、分からないですが、今後増えてくるだろうと予想しています。

[酒井委員]

この件はそもそも、それが良いのか悪いのかという話になりますと、社会全体がそのような流れなのかと思いますし、善悪の話をする事でも無いのかと思います。子ども自身は行きたいと思ってるのに、親が他の何か先ほどおっしゃった学習の面であったり、あるいは自己学習のために親が行かせないみたいなことも出てくるのかと思います。そういうところまで話を広げてしまいますと収集が付かないため、これ以上は控えたいと思います。

1つ私が気になりました事は、不登校の報告をいただく時に、数字だけで見るのではなく、いわゆる自分の意思で学校に来ない子どもも同じ不登校の数字に入れますと誤解を招く感じがしまして。そこは、昔は登校拒否という言葉がありましたけども、あえて行かないのに行きたいけど行けない子どもは本質的に違うのかと思ひまして、分けてご報告いただいた方が実態が分かるのかと思ひまして、検討をいただけるとありがたいと思います。

[高岡総括指導主事]

報告している数値は、文部科学省への報告というところの基準に沿っての数値です。こういった情勢の変化はありますが、文科省が報告の方針や様式を変えるかどうかということについては、よくわかりません。

[酒井委員]

文部科学省の方向性もありますし、ご報告いただく時にその中の割合を教えてくださいとありがたいです。

[長島教育長]

樋口委員お願いします。

[樋口委員]

酒井委員がおっしゃったことを聞きたいと思っていました。中学校訪問の際に、不登校が増えていまして、ある子どもの事をお話しますと、ご本人も悩んでいると、親御さんも真剣に悩んでおられるのですが、本人の心の葛藤がなかなか取れなくて、学校に行くことができないという不登校と、怠惰という面で最近、学校行かなくても良い雰囲気という感じで休んでいる生徒がいる様でして、明らかに校長先生が見ていてもそういう雰囲気が分かる。この2つは違うということを、私は思っていまして、酒井委員がおっしゃったのは多分、その辺の話だと思うのです。

それは両方共、不登校という現実が変わりはないのですが、私共が捉える不登校というものは、きちんと分けて考えなければならないのかと思います。例えば、初めに申し上げた本当に助けて欲しいという思いがある場合のアプローチの仕方と、後者の方はフォローしなくても良いという訳では無くて、そちらはそちらでアプローチしていかなければならないのですが、そこら辺はやはり僕らも考えを持たなければならないと思うのです。

それに対しては現実、現場を見てる訳ではないですが、各部、各先生方、現場の方々が対応していただいているのだらうと思うのです。人数が少ないうちは、各個別単位で対応できているものが、これだけ増えてくるとそれがどこまで今の人員配置ないし、今の学校の体制で対応できるかを危惧するところであります。

その辺についての現場とか考えが増えていく事に対して、それと種々の対応を変えなければならない事への対応が気になりました。あと、それに関してですが、親御さんに何かできることが無いか伺ったところ、ただ本人の問題なので、なかなか時間が掛かるかも知れないのでそこは「戦いです」という話を伺いました。

そうですかと言いながら、私はどの様なことをしているのか、親御さんにどの様な対応しているか、こちらから立場上聞く事ができなかったのです。心配になっている、不安になっている親御さんとのフォローでありましたり、そうした対応で特徴的な事や現場で起きている事で、もしお話できる部分があれば教えていただけたらありがたいと思います。

この場で時間が長くなるようであれば、後日でも結構です。それともう1点質問があります。それは別の話ですので、よろしければお時間をください。

[高岡総括指導主事]

確かに学校現場はこれだけの数が増えてきますと、一人一人の適切な指導や支援という

意味では、本当に苦慮しています。

かつては、すべての児童生徒を教室に復帰をさせることが第一の目的の様な形で進めていましたが、今はそうではありません。不登校の子どもが、今一番、安心・安全な心許せたり、自らが意欲をもち生活や学習できたりする場所はどこだろうという考えで、取組や支援を考えています。

[長島教育長]

樋口委員もう1つの質問をお願いします。

[樋口委員]

親御さんもいろんな親御さんがいらっしゃって、放任でうちの子が行かないと主張しているから行かないという方もおられます。

例えば、子どもが嫌がって無理に行かせる必要は無いという考え方も分からないでも無いですが、こちら側の立場としては、それを放置できない話だと思うのです。ただ、真剣に悩んでいる親御さんが学校を通じて、町を通じて、そういった対応を求められた時に、対応の窓口があるのかどうかということと、そうした方々に対してどういうことができるのか、一部でも結構ですでお知らせいただけたらありがたいと思います。

また、そういったご相談を私自身がもし受けた場合に、「まずは基本的に学校に相談して下さいとお伝えし、担任から、また担任でなければ、生徒指導の3者がいらっしゃいますので、その方々に連絡していただいたら良いです。それで何もレスポンスが無ければ私共に言ってください。」と言います。

その辺はきちんとできていると思いますが、私自身がその現場を知りませんので、そういった状況で現場にいらっしゃる方々がどういった対応をされているかを1つでもお聞かせいただければ参考になります。

[高岡総括指導主事]

相談を受けるのは、基本的には、学校の担任です。学校が相談を受けた場合は、学校組織の中の教育相談部というところが、中心になり分析や方策を考えます。

行政としては、トライアングルの様な不登校児童生徒の受け皿もありますので、学校に相談していただければ、トライアングルに繋ぐことはできますし、当然、教育委員会に来ていただいても、お話もできますしサポートもできます。

合わせて、子ども・保護者への教育相談、例えば、学校のSSW（ソーシャル・スクール・ワーカー）であったり、SC（スクール・カウンセラー）であったり、養護教諭の先生であったり、通級指導教室の先生であったりと、そういったところが教育相談に乗って下さる事もありますし、少し専門的になれば、子育て応援課のクローバールームに臨床心理士が2名いらっしゃいますので、そちらに依頼をすることも可能です。

そういった部分では、1人で悩まずに学校を中核にしながら行政が持っている施設や、相談先に依頼されるのが1つの方法かと思います。

[樋口委員]

皆さんがそういった形で、預けられる場所があるということが大事なのかと思います。

それが、どの様な形で皆さんに知っていただくのが良いのかが悩み所ですが、基本的に

は親御さんがそういった子ども達の不登校の兆しが見えた時に、そこにすぐに相談できる形は、これからも広げていかなければならないと思いました。

[長島教育長]

続きまして、「令和6年度 第2回学級満足度調査結果概要」について、片西指導主事が報告をいたします。

(片西指導主事から資料に基づき説明)

[長島教育長]

何か、ご質問等ございますか。

[樋口委員]

基本的に満足度が増えているのは、現場の先生方のご尽力のおかげだと思います。細かい気配りや個別指導の成果が表れている数字だと思い、それがまず1つ嬉しいことだと思います。

とはいうものの、やはり不安定なところが見られる中で、気になるのは、いろんな学校に行かせていただいた中で、ベテランの先生と、若い先生のクラスの雰囲気が違う印象が見受けられます。

若い先生の中でもしっかりされている方もおられますし、ベテランの先生でも和気あいあいと賑やかな先生もおられます。QUを通して、先生の経験が指導に表れるものなのか、不安定なところであったり、不満足の部分ですと若い先生が多いという印象を受けます。その辺のことを1点教えていただきたいです。

もう1点につきましては、これから野田川地域も学校統合という複数クラスの可能性が考えられるのですが、不安定・不満足な学年は1学年1クラスに多いのか、2クラスに多いのかを把握されてましたら教えてください。

[片西指導主事]

まず、ベテラン・若手にどのような違いがあるかという事ですが、経験の中で培われる子どもの見取りであったり、学級経営の進め方の部分は大きくあるかと思われます。

若い先生であれば、若いという部分を武器にしながら魅力的な学級を作るところもたくさんありますので、一概に若いから、またベテランだからというところは無いと思いますが、傾向としては、ベテランの先生方が経験により培われた部分で学級を上手にまとめていかれる場合が多いということは数値としても表れています。

それから、複数学級ある学校と単級の学校で不安定な傾向があるのかについてです。

複数学級ある場合については、ペアが生まれるので、お互いの指導から学び合う事で、一緒に関係を作っていける部分の良さはあるかと思いますが、複数学級ある学校でも厳しい学級も見受けられます。一概に複数ある方が不安定な学級が減るかと言いますとそうではなく、少人数また単級との違いに明確な差はありません。

[樋口委員]

与謝野町自体はサンプル数と言いますか、分母が少ないと思いますが、他地域や全国を

見て、もしもQ Uや学級満足度調査のことに対して関わっておられる中で、先生が今まで
の見識の中で、少人数学級と複数学級ある学校との差はあまり感じられないのでしょうか。

[片西指導主事]

人数的なところで、1学級の人数が10人弱と非常に少ない学級でしたら、1人1人に
目が届いて学びが定着しやすいというイメージはあります。また多人数で1学級に30人
以上となりますと、色々な子どもの割合も増え、クラスを1つにしていけるのは難しいとい
う様なイメージはあるかと思います。

複数学級と単級の違いですが、私の感覚としては、少人数は少人数で人間関係をはじめ
として固定化してしまうという部分があります。その中でもっとチャレンジしていこうと
いう意欲が生まれにくい様な雰囲気になる場合も多く、少人数でも学級が苦しくなるとい
う例もたくさん見てきています。

少なければ、落ち着きやすいということは、これも一概に無いと思います。人数ではな
く、どの様な学級を作っていけるかは1人1人を大事にする、1人が役割を持ってクラス
のために気持ちよく動けるという、そういう仕組みであったり、価値観が学級にあるかど
うかで、人数の部分非常に大きな影響を与えるかと言いますと、感覚としては凄く大き
いものではないと思っています。

[長島教育長]

他の委員の皆様、よろしいでしょうか。佐々木委員お願いします。

[佐々木委員]

満足型が増えている中、小学校も中学校も1年生の不安定型が増えているところが少し
気になり、今までもそうだったかなと思い返しているのですが、学習面でもというところ
は私もとても大きいと思います。

小中連携、保幼小連携で色々としていただいているのですが、今までとは違う、保育園
は遊びが中心と良く言われます。それが勉強ということになりますと、例えば、小学校か
ら中学校に上がる段階において、英語ですと楽しい英語が中心だったものが、難しい勉強
の英語になる様なギャップが凄くあると個人的に思いましたが、その辺はどの様にお考で
しょうかお聞かせ下さい。

[片西指導主事]

小学校から中学校へのスムーズな接続、より充実した連携というところでは、やはりこ
れも今後、もっと改善していく点が大きいと思っています。

引き継ぎについても接続についても、これまではこの子はこの子ですとか、個に視点を
当てた引き継ぎが、小学校から中学校に上がる過程で多かったです。

学級としてこんな力をつけています。この様な価値観を大切にきており、この様な
ことを大事に集団として育てていってます。こういうことはもう育っていますという様な
もう少し広い意味の部分まで連携したり、そこの部分をうまく繋がる様にできたかと言
いますと、まだまだ改善の余地があるのかと思われれます。

そういう部分まで連携していくには、どの様な仕組み作りが必要になるか、今後、出る
ところがあるのかと思っています。

[長島教育長]

補足で宮崎指導主事よろしいですか。

[宮崎指導主事]

幼児教育を担当している関係で補足をさせていただきます。小学校1年生での問題点は、かなり以前からあったという風に思います。これまでも、それを解消させるために1年生ではスタートカリキュラムと言いまして、入学当初はできるだけこども園や幼稚園に少し合わせる様な、なじませる様なカリキュラムを組んでいます。年長になったらアプローチプログラムで、入学が近づいてきますと小学校の時間帯を意識した様なプログラムを組んでいます。これも当初は、小学校の学校生活を円滑にスタートするためにこの様な事を実施しました。

例えば、授業中は座って前を向いて、座りましょうとか、手を挙げて発表しましょうと、そうした学校の規則的なことに馴染ませる意味合いがありました。しかし今は、幼児教育がより重要視されており、子ども達が自分がやりたいという気持ちを大事にして、これまで、こども園で身に付けてきた力を上手く小学校に生かそうという意図があり、もう少しスタートカリキュラムと等も変えていく必要があるという事で、見直しをする動きになっています。

その辺りを、もう少し幼小接続で、改善、見直しを進めている最中です。

[長島教育長]

宮崎指導主事が申された通り、子育て応援課との連携を次年度、幼少の連携を深めるために進めていかなければならないことを、具体的な形で話をし始めてるところであります。

[長島教育長]

続きまして、[令和7年度学校教育指導の重点について]、片西指導主事が報告いたします。

(片西指導主事から資料に基づき説明)

[長島教育長]

令和7年度の学校教育についての説明をしていただきました。前年度までとの大きな変更点は、1ページに与謝野町の目指す子ども像としっかりと明示をしたということであり、説明をお聞きしまして、教育委員の皆様からお感じになられたことはありますか。

[酒井委員]

時間的に余裕があるのであれば、来月になるのでしょうか。

[長島教育長]

どの程度の時間的余裕がありますか。校園長会議での提示となりますか。

[高岡総括指導主事]

校園長会議は2月19日になります。

[長島教育長]

会議ということだと、間に合わなくなるかと思いますが、お感じになられた部分、疑問点につきまして、こちらの方にご連絡いただきましたら検討させていただくということは、時間的に2月の下旬くらいまでにお世話にさせていただきたいと思います。特に今、お感じになられた部分で、ご質問があればご意見をいただきたいのですがよろしいでしょうか。

(委員からの意見・質問なし)

[長島教育長]

続きまして、「学力状況の広報について」、宮崎指導主事が報告いたします。

(宮崎指導主事から資料に基づき説明)

[長島教育長]

何か、ご質問等ございますか。

[酒井委員]

学年テストなのですが、学年はあえて書かないのでしょうか。特に意識する様な事では無くて、ご存知の方はご存知だと思いますが、ピンポイントでこの学年がこの点数であると、表記されている方が良く分かると思いますが。

[宮崎指導主事]

あえて書かないということでは無いですが、新聞報道等でも小学校6年生と中学校3年生は、周知の事実と思っていましたので、本文の中には記していません。

[長島教育長]

文中に小6と中3という言葉が出てきますので、グラフも小6・中3となります。最初の所に何々を対象にしてとは書いて無いですが、文中を読んでいけば、小6・中3が対象だということは見て取れる思います。最初の書き出しのところに書くか、書かないかですが、どちらでも良いと思います。

[酒井委員]

あえて記載するよりは、記載しない方が良いと思います。

[樋口委員]

これだけのまとめをしていただき、ありがとうございました。こういったことをきちんと町民の皆様が把握される事は、まず大事だと思います。以前から教育委員会、教育現場の状況をできるだけ地域の皆さんに知っていただきたい、学校がどれだけ頑張られているかもです。

もちろん保護者や学校に関わる方はご存知でしょうが、そういった機会が少ない方にお伝えする機会がありませんので、そういった形でも出していただければありがたいと思います。

[長島教育長]

最後になりますが、その他「事務局からについて」、中上教育次長お願いします。

[中上教育次長]

私からは2点報告があります。まず1点目ですが回答書があります。これにつきましては、昨年11月29日付けで市場小学校区の岩屋地域保護者一同と岩屋区からの連名で、児童のスクールバス運行に関する要望書が上がって参りました。

これについて日付を見ていただいた通り、昨日、回答書を町長と教育長の連名で出させていただきました。

内容については3点あります。1つ目に「スクールバス導入補助金の対象外であっても通学路や地域の特性状況により、児童の通学の安全確保のためのスクールバスを運行すること」について挙がっております。

これにつきましては、本町では文部科学省の通知の通りですが、小学校では4キロ以内、中学校では6キロ以内を目安に、徒歩や自転車による通学距離を判断しているということでお返しをさせていただいております。

2つ目に「通年の運行が直ちに困難な場合は熱中症が危惧される、夏の期間と降雪により、特に危険となる冬の期間についてスクールバスを運行する部分」について、近年、やはり熱中症の事故が、特に下校時に起きていまして、岩屋区の子ども達でもその様な事があったと聞いています。

その対策としまして、町の方では来年度からですが、通学距離2キロを超える児童へ下校時におけるマイクロバス対応をしていくということで回答させていただいております。

岩屋区の方から上がってきております要望書ですが、2キロ以上の子どもは岩屋区だけではなく、石川区の川上、堂谷、それから下山田、岩滝地域で言いますと男山区にも2キロ以上の通学をしている子どもがおりますので、その子ども達も対象に来年度からマイクロバスで下校時のみ学校から住宅付近まで、という様なことで考えたいと思っています。

3つ目に「スクールバス運行が、町直営で困難な場合はその代替の検討と規制の緩和について」ということを要望されておりますが、周辺市町で見えていきますと、特にここに書いてあります冬の期間もということですが、冬場はなかなか対応ができず、雪が降った時にだけバスを出すということは非常に困難ですし、また周辺市町に聞きましても、冬場に対応している市町はありませんので、まずは夏季に限定した形で対応するという事で、回答をさせていただいております。

夏場のスクールバスは令和7年度からの対応となります。よろしくお願いいたします。

次に2つ目の報告です。江陽中学校で学校裏に自転車小屋がありますが、自転車小屋に枯れ木の枝が折れ、屋根の一部が損傷する事故がありました。

幸いにも、その時は雪が降っていましたので自転車で通学する生徒もおらず、自転車小屋にほとんど自転車が無い様な状態だったので良かったのですが、倒木があったため、その周辺の木を観察したところ、何本か枯れた木が発見されました。

急遽ですが、枯木の伐採処分と倒木処分を行いたいと考えております。予算がないので

予備費で対応する事となり、今日から駐輪場の自転車小屋の屋根の取り外しを行う作業に入っています。木の伐採については、2月5日から2月19日の間に実施します。木の処分については、2月17日から2月21日の間に行います。請負業者については、富山工業株式会社加悦営業所に依頼しました。

江陽中学校PTAの総会が2月11日、期末テストが2月26から28日ということですが、できるだけ早く作業を終わらせたいと考えております。卒業式等の行事が3月に入っているので、その頃には完了したいと思っています。契約金額は242万2,200円になります。私からの報告は以上です。

[長島教育長]

中上教育次長から2件報告がありました。1件目のバス下校時の運行につきましては、説明にありました通り、令和7年度からの夏季に限定した形で、町内で他地域でも対応していく形で予算通知を議会の方をお願いをして、ご理解していただく方向で進めて参ります。なお、2月の校園長の方で、校園長の皆様にもお伝えし、該当の地区の校長先生には近々に話を行います。保護者への説明も必要になりますので、そちらの方も考えていくところであります。

[小谷社会教育課長]

追加の説明をさせていただきます。

[長島教育長]

では、小谷課長お願いします。

[小谷社会教育課長]

成人式について、ご質問いただいた内容の補足を少しさせていただきます。私の頭の中に約180人という記憶がありましたので、お答えした際に資料が無かったので、それを前提に例年と比較して、大きな変化は無かったと思っていました。

資料を取ってきました、180人という記憶は令和4年度の参加者数です。令和4・5・6年と3年間見てみますと、令和5年度が157人なので、減ってから令和6年度は181人、また増えています。単純に157人と比較をしますと、増えたという風に思います。

それは住民台帳に一度でも乗った方に対しては、広く周知をしたので増えたという分析ができるのかと思いますが、経年で見た時に、どうなのかというところもありますので、その効果もあつたのかも知れませんが、少なくとも、今年からやり方を変えましたので、今後、分析をしていく場合は、今回が基礎ベースになるかと思っています。

いずれにしても、子どもの人口が徐々に減っていきますので、できるだけ多くの方に成人式に参加いただける様にしていきたいと考えております。

[長島教育長]

ありがとうございました。今後の予定について、中上教育次長が説明いたします。

[中上教育次長]

次回の教育委員会会議の日程調整をさせていただきたいです。

(次回、教育委員会及び各会議の日程調整)

[中上教育次長]

次回の教育委員会会議については、2月26日(水)となります。午前9時30分から
お世話になりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

[長島教育長]

以上で本日の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

午前11時45分 終了

教育長

委 員

委 員

書 記